2025年12月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年８月８日

上場会社名　　株式会社enish　　上場取引所　東
コード番号　　3667　　ＵＲＬ　https://www.enish.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）安徳　孝平
問合せ先責任者　（役職名）管理本部長　　（氏名）高木　和成　　ＴＥＬ　03（6447）4020

半期報告書提出予定日　2025年８月12日　　配当支払開始予定日 ―
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2025年12月期第２四半期（中間期）の業績（2025年１月１日～2025年６月30日）

（１）経営成績（累計）　　（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年12月期中間期	1,193	△24.2	△384	―	△382	―	△633	―
2024年12月期中間期	1,575	△9.3	△577	―	△609	―	△611	―

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	△21.15	―
2024年12月期中間期	△27.60	―

（注）2024年12月期中間期及び2025年12月期中間期の潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、１株当たり中間純損失金額であるため記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2025年12月期中間期	1,776	984	55.2	29.23
2024年12月期	1,760	889	50.3	32.99

（参考）自己資本　　2025年12月期中間期　　980百万円　　2024年12月期　　885百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2025年12月期	―	0.00			
2025年12月期（予想）			―	―	―

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2025年12月期の期末配当予想につきましては、現在未定であります。

３．2025年12月期の業績予想（2025年１月１日～2025年12月31日）

2025年12月期の業績予想につきましては、現時点で合理的な業績予想の算出ができないことから記載しておりません。なお、当該理由等につきましては、添付資料P.３「１．当中間決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※　注記事項

（１）中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：無

④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期中間期	33,543,560株	2024年12月期	26,843,560株
②　期末自己株式数	2025年12月期中間期	674株	2024年12月期	674株
③　期中平均株式数（中間期）	2025年12月期中間期	29,937,278株	2024年12月期中間期	22,142,485株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P．２「１．当中間決算に関する定性的情報（１）経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間貸借対照表 …… 4
（２）中間損益計算書 …… 5
（３）中間キャッシュ・フロー計算書 …… 6
（４）中間財務諸表に関する注記事項 …… 7
(継続企業の前提に関する注記) …… 7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) …… 7
(セグメント情報等の注記) …… 7
(重要な後発事象) …… 7
３．その他 …… 7
継続企業の前提に関する重要事象等 …… 8

１．当中間決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当中間会計期間における我が国経済は、雇用や所得環境の改善により緩やかな回復傾向にある一方で、為替相場の変動や原材料価格の高騰による物価上昇などの影響により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当社は「Link with Fun」というスローガンのもと、「世界中にenishファンを作り出す」というミッションを掲げ、より多くのお客様に楽しんでいただける魅力的なサービスの提供に取り組んでおります。

既存タイトルについては、リリース15年目を迎えた「ぼくのレストラン２」および「ガルショ☆」は、コラボレーション施策などが好調に推移しており、引き続き当社の売上収益に大きく貢献しております。今後も運営施策の工夫により売上の逓減を最小限に抑えるとともに、よりきめ細やかな対応を図り、ユーザーの皆様の満足度向上に努めてまいります。

リリース３周年を迎えた大人気作品『進撃の巨人』のスマートフォンゲーム「進撃の巨人 Brave Order」では、ゲーム内のさらなる活性化を図るため、新規ユーザーの獲得や既存ユーザーの呼び戻し施策、機能改善などを進めており、引き続き魅力的なイベント施策を展開し、収益寄与につなげてまいります。

2024年８月にリリースされた、累計ダウンロード数900万突破のスマートフォン向けドラマチック共闘オンラインRPG「De:Lithe～忘却の真王と盟約の天使～」をベースとした、モバイルゲームクオリティのブロックチェーンゲーム「De:Lithe Last Memories（ディライズ ラストメモリーズ）」は、無数の敵を殲滅しながらダンジョンを進行するローグライトRPGです。ガバナンス・ユーティリティトークン「GEEK」の暗号資産取引所からのデリストにより、売上への寄与は限定的となりましたが、当社は再始動に向けた対応を開始しております。今後は、ユーザーの皆様からいただくご意見を大切にしながら、今後の展開につなげてまいります。なお、「GEEK」のデリストにより、当社がGeekOut PTE.LTD.に対して保有していた貸付金及び売掛金について、回収不能と判断したことから、当中間会計期間において貸倒損失244百万円を特別損失として計上しております。

また、足元の状況としては、2025年夏のリリースを予定する新作オンライン麻雀ゲーム「雀エボライブ」を開発中であることを発表いたしました。本作は、麻雀初心者から上級者まで、様々なプレイモードで対戦麻雀をお楽しみいただけるオンライン麻雀ゲームです。36人の個性豊かなキャラクター（ドール）が雀士として登場し、36 人の豪華声優陣がキャラクターボイスを担当するなど、麻雀対局だけでなく、登場キャラクターの魅力を活かしたコレクション要素も本作の特徴です。お気に入りの雀士（ドール）のきせかえ衣装を集め、自分だけの特別な雀士ライフをお楽しみいただける内容となっております。

さらに、2025年夏のリリースを予定する新作パズルゲーム「声優どうぶつ園 ボイスフル」を開発中であることを発表いたしました。本作は、パズルゲームとしての爽快感とキャラクターの個性を活かした演出が特徴のスマートフォン向けゲームです。大手声優事務所81プロデュース所属の31名の声優が参加し、それぞれが個性豊かなキャラクターの声を担当しており、ゲームの世界観をより魅力的に演出します。今後は段階的にキャラクターや出演声優に関する情報を公開していく予定であり、ぜひ皆さまに“推しボイス”を見つけていただければと考えております。

コスト面においては、AI技術を活用した業務プロセスの効率化を社内で推進し、より生産的かつ持続可能な体制の構築を図っております。その結果、コスト適正化の取り組みが着実に成果を上げており、外注加工費や広告宣伝費の削減につながるなど、売上原価および販売費及び一般管理費の低減も引き続き実現されています。

なお、当社に対しては、株式会社HashPaletteより不当利得返還請求として176百万円の訴訟が提起されておりますが、今後、先方の主張及び請求内容を精査のうえ適切に対処してまいります。進捗に伴い、開示すべき事項が判明した場合には、速やかにお知らせいたします。

当事業年度においては、既存タイトルの効果的運営を推進するとともに、当社がこれまでに獲得したWeb3サービスに関するノウハウを活かしたゲームを含む、新規タイトルの開発に向けても人材を投入しております。引き続き有力IP案件を確保するなど、年１～２本ペースでの新規タイトルリリースを通じて、利益の積み上げと企業価値の向上を図ってまいります。

この結果、当中間会計期間の業績は、売上高は1,193百万円（前年同期比24.2%の減少）、営業損失は384百万円（前年同期は577百万円の営業損失）、経常損失は382百万円（前年同期は609百万円の経常損失）、中間純損失は633百万円（前年同期は611百万円の中間純損失）となっております。

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当中間会計期間末の流動資産につきましては、前事業年度末に比べて16百万円増加し、1,504百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加（前事業年度末比240百万円の増加）があった一方で、売掛金の減少（前事業年度末比212百万円の減少）によるものであります。固定資産につきましては271百万円となりました。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べ15百万円増加し、1,776百万円となりました。

（負債）

当中間会計期間末の流動負債につきましては、前事業年度末に比べて78百万円減少し、789百万円となりました。これは主に、買掛金の減少（前事業年度末比43百万円の減少）、未払金の減少（前事業年度末比43百万円の減少）によるものであります。固定負債につきましては３百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べ79百万円減少し、792百万円となりました。

（純資産）

当中間会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて94百万円増加し、984百万円となりました。これは主に、中間純損失を633百万円計上したものの、第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権の権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ364百万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、967百万円となりました。当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において営業活動により使用した資金は、376百万円となりました。これは主に、税引前中間純損失631百万円の計上、貸倒損失244百万円の計上があった一方で、売上債権の増減額52百万円があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において投資活動により使用した資金は、108百万円となりました。これは主に、暗号資産の取得による支出104百万円、有形固定資産の取得による支出３百万円があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間において財務活動により獲得した資金は、689百万円となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入724百万円によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月期につきましては、既存タイトルの売上高の維持と効率的な運営体制の見直しを通じて収益力の強化を図ってまいります。また、売上収益の拡大を目的として、新規に年間１～２タイトルのリリースを進めていく方針です。

今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、開発の長期化や開発費の高騰など各種リスクの低減を図りつつ、高品質なタイトルの開発を推進してまいります。

業績予想につきましては、モバイルゲーム事業を取り巻く環境の変化が激しく、当社の業績も短期的に大きく変動する可能性があることなどから、信頼性の高い業績予想数値の算出が困難な状況にあります。このため、決算業績および事業の概況については速やかな開示に努める一方で、業績予想の開示は見合わせております。

２．中間財務諸表及び主な注記

（１）中間貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年６月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	809,755	1,050,464
売掛金	434,635	221,875
前払費用	53,411	43,067
暗号資産	－	124,629
その他	190,674	64,675
流動資産合計	1,488,477	1,504,712
固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	40,659	40,659
関係会社株式	133,580	133,580
敷金及び保証金	94,160	95,010
その他	3,915	2,612
投資その他の資産合計	272,316	271,863
固定資産合計	272,316	271,863
資産合計	1,760,793	1,776,575
負債の部		
流動負債		
買掛金	108,789	65,685
短期借入金	300,000	300,000
未払金	120,803	77,634
契約負債	276,589	292,628
その他	61,518	53,067
流動負債合計	867,701	789,016
固定負債		
その他	3,631	3,304
固定負債合計	3,631	3,304
負債合計	871,333	792,320
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,389,188	4,753,281
資本剰余金	4,388,187	4,752,280
利益剰余金	△7,891,488	△8,524,880
自己株式	△191	△191
株主資本合計	885,695	980,489
新株予約権	3,765	3,765
純資産合計	889,460	984,254
負債純資産合計	1,760,793	1,776,575

（２）中間損益計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自　2024年１月１日 至　2024年６月30日）	当中間会計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年６月30日）
売上高	1,575,516	1,193,765
売上原価	1,698,989	1,319,094
売上総損失（△）	△123,473	△125,329
販売費及び一般管理費	453,535	259,112
営業損失（△）	△577,008	△384,441
営業外収益		
過年度消費税等	6,000	－
受取利息	488	3,341
暗号資産評価益	－	20,514
その他	171	59
営業外収益合計	6,659	23,915
営業外費用		
支払利息	31,522	17,022
株式交付費	4,383	2,983
その他	3,186	1,860
営業外費用合計	39,092	21,867
経常損失（△）	△609,441	△382,393
特別損失		
減損損失	－	3,155
貸倒損失	－	244,075
その他	－	1,801
特別損失合計	－	249,032
税引前中間純損失（△）	△609,441	△631,426
法人税、住民税及び事業税	1,900	1,965
法人税等合計	1,900	1,965
中間純損失（△）	△611,341	△633,391

（３）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自　2024年１月１日 至　2024年６月30日）	当中間会計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年６月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失（△）	△609,441	△631,426
減価償却費	2,331	－
減損損失	－	3,155
貸倒損失	－	244,075
株式交付費	4,383	2,983
受取利息及び受取配当金	△488	△3,341
支払利息	31,536	17,022
為替差損益（△は益）	△1,392	897
暗号資産評価損益（△は益）	－	△20,514
売上債権の増減額（△は増加）	28,829	52,509
仕入債務の増減額（△は減少）	△30,527	△43,103
未払金の増減額（△は減少）	21,259	△43,168
契約負債の増減額（△は減少）	△27,707	16,038
未払又は未収消費税等の増減額	47,920	25,301
その他の資産の増減額（△は増加）	△11,872	29,210
その他の負債の増減額（△は減少）	812	△4,542
小計	△544,354	△354,903
利息及び配当金の受取額	4	427
利息の支払額	△22	△18,044
法人税等の支払額	△3,800	△3,865
法人税等の還付額	－	13
営業活動によるキャッシュ・フロー	△548,170	△376,372
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,566	△3,155
関係会社貸付けによる支出	△34,188	－
敷金及び保証金の差入による支出	△5,500	△850
暗号資産の取得による支出	－	△104,114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△41,254	△108,120
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	－	300,000
短期借入金の返済による支出	△250,000	△300,000
新株予約権の発行による収入	1,915	871
新株予約権の行使による株式の発行による収入	1,049,038	724,331
自己株式の取得による支出	△129	－
自己信託に供した預金の増減額	157,148	△35,943
財務活動によるキャッシュ・フロー	957,971	689,259
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	368,546	204,766
現金及び現金同等物の期首残高	707,713	762,807
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,076,259	967,573

（４）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

当社は、前事業年度まで10期連続となる営業損失及び11期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社は、当該事象又は状況を解消し事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するために、以下の対応策を講じております。

①事業基盤の安定化

徹底的なコスト削減や、事業の選択と集中により、事業基盤の安定化を図ってまいります。具体的には、既存タイトルについては、各タイトルの収益状況に応じた人員配置を行うなど運営体制の見直しを継続的に行うことによりコスト削減を図るほか、その中においても収益が見込めない既存タイトルについては、それらの事業譲渡・配信終了も視野に対応する方針であります。また、他社IPタイトルとのコラボレーションを実施するなど、他社IPの協力を得ることによりユーザーのログイン回数や滞留時間の増加を図り、売上収益の拡大を進めてまいります。今後の新規タイトルにつきましては、新規開発に注力できる体制を構築・維持することで、高品質なタイトルの開発を推進いたします。人員体制及び協力企業の制作力・技術力を踏まえ、過去事例を参考に慎重に工数を見積もることで、開発スケジュールの遅延等による開発費の増加が生じないよう努めてまいります。また、IPの価値と経済条件を踏まえ収益性が高く見込まれるタイトルに対して優先的に開発・運営人員を配置することにより、当社の収益改善を図ってまいります。

②財務基盤の安定化

財務面につきましては、財務基盤の安定化のため、複数社の取引金融機関や協業先と良好な関係性を築いており、引き続き協力を頂くための協議を進めております。なお、2025年１月10日付で発行した第三者割当による行使価額修正条項付第19回新株予約権が2025年５月29日までにすべて行使された結果、727,315千円の資金調達をしており、財務基盤の安定化が図られております。売上高やコスト等の会社状況を注視し、必要に応じてすみやかな各種対応策の実行をしてまいります。

上記の対応策を講じていくとしても、既存タイトルの売上動向、新規タイトルの売上見込及び運営タイトルの各種コスト削減については将来の予測を含んでおり、引き続き業績の回復状況を慎重に見極める必要があることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間財務諸表に反映しておりません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、当中間会計期間において、新株予約権の行使に伴い新株式6,700,000株の発行を行いました。
この結果、当中間会計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ364,093千円増加し、当中間会計期間末において資本金が4,753,281千円、資本剰余金が4,752,280千円となっております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社は、エンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

３．その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度まで10期連続となる営業損失及び11期連続となるマイナスの営業キャッシュ・フローを計上しており、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

なお、詳細につきましては、「２．中間財務諸表及び主な注記（４）中間財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）に記載しております。